

『ゆけむり史学』第十三号の刊行によせて

白峰 旬

昨年は改元があり、「令和」という新しい元号になった。私が所長を務める別府大学アジア歴史文化研究所主催の講演会「令和」の元号と『万葉集』を昨年十月二十六日に別府大学メディアホールでおこない、一般の聴講者も含めて、多くの方に聴講していただき盛況であった。このことは、「令和」という新しい元号に対する、一般の方々の関心の高さをうかがわせるものであった。

その講演会では、本学文学部史学・文化財学科の宮崎聖明准教授が「元号」について「中国におけるその起源と展開」というテーマで、御専門の中国史の視点から御講演をされ、本学文学部国際言語・文化学科の浅野則子教授が「令和」の元号と『万葉集』というテーマで、御専門の『万葉集』研究の視点から御講演をされた。「令和」という新しい元号になったことについては、多くのテレビ番組でも取り上げられ、専門の歴史学者がコメントを述べるなど、一般視聴者層の日本史に対する関心の高さを示していた、と言えよう。

本号では、本学大学院歴史学専攻のOBである福永素久氏（杵築市教育委員会）が、力作の原稿を寄稿してくれたことに感謝したい。

福永氏は城郭史が御専門であり、本学大学院文学研究科歴史学専攻の在籍時には、私の指導のもとで修士論文を提出された。福永氏は現在、全国規模の城郭関係の学会でも活発に発表をされている。昨年には別府大学史学研究会の第三回奨励賞を受賞され、別府大学史学研究会の大会（令和元年七月二十日、於別府大学三二号館五〇〇番教室）では、その受賞記念講演として「大分の中世城館——ここまでわかった故郷の城跡——」というテーマで非常に意義のある講演をされたことは記憶に新しい。

このように、本学大学院歴史学専攻のOBの方が、大学院修了後も御研究を着実に進められていることは、本学大学院歴史学専攻の教員として喜ばしい限りであり、今後のさらなる活躍に期待したい。